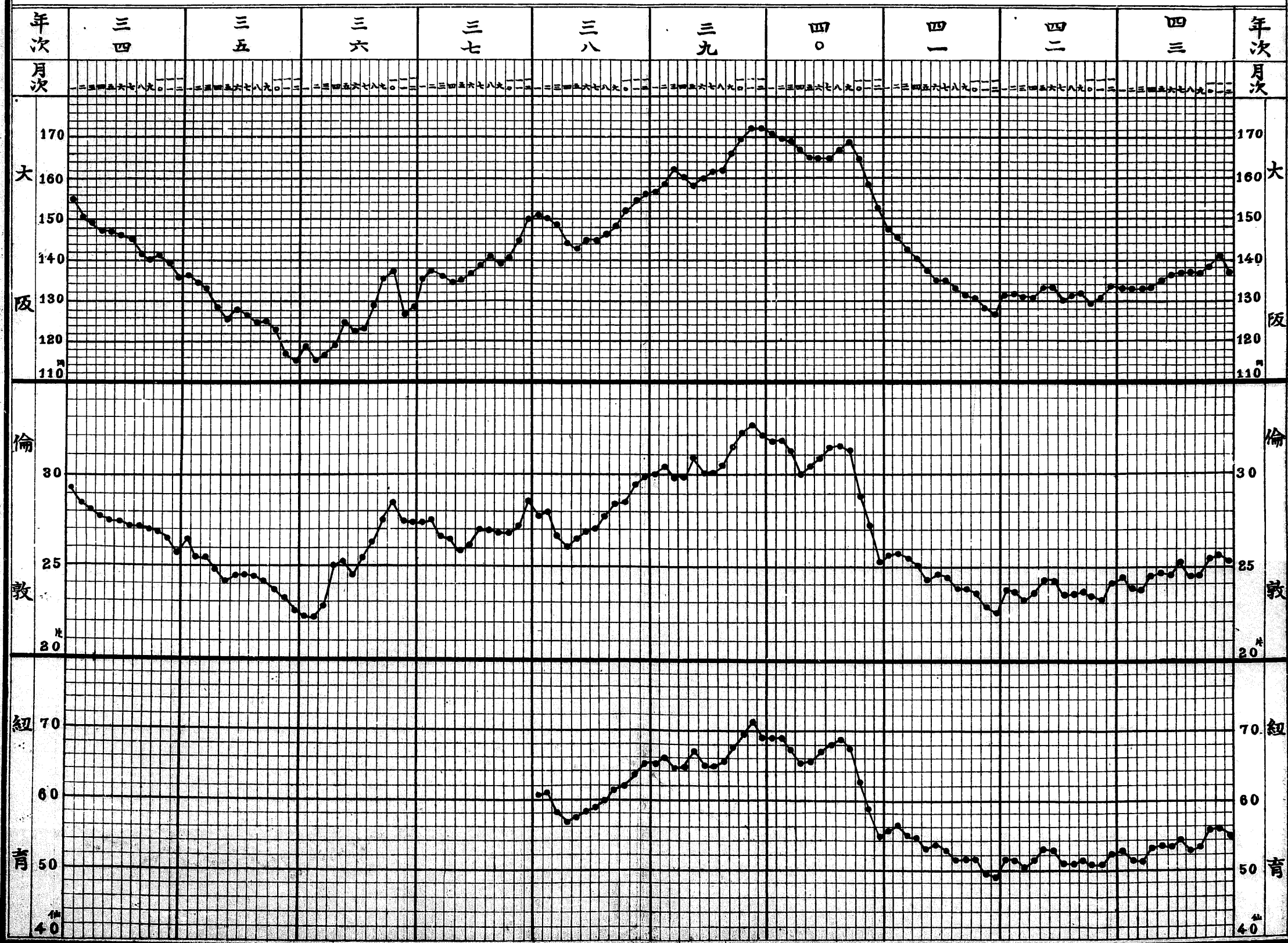


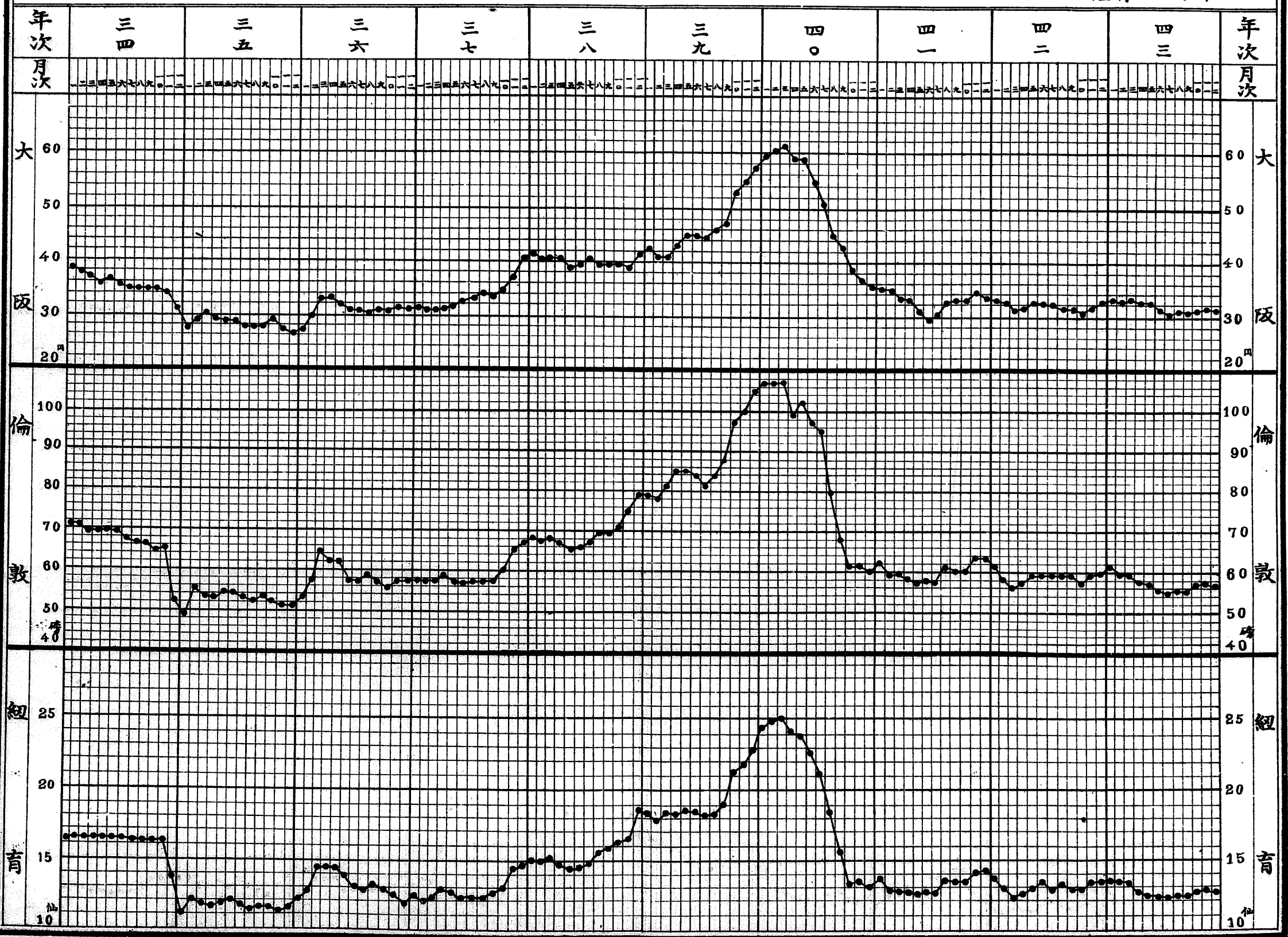
銀 市 價

大阪ハ一貫目
倫敦、紐育ハ一オンス



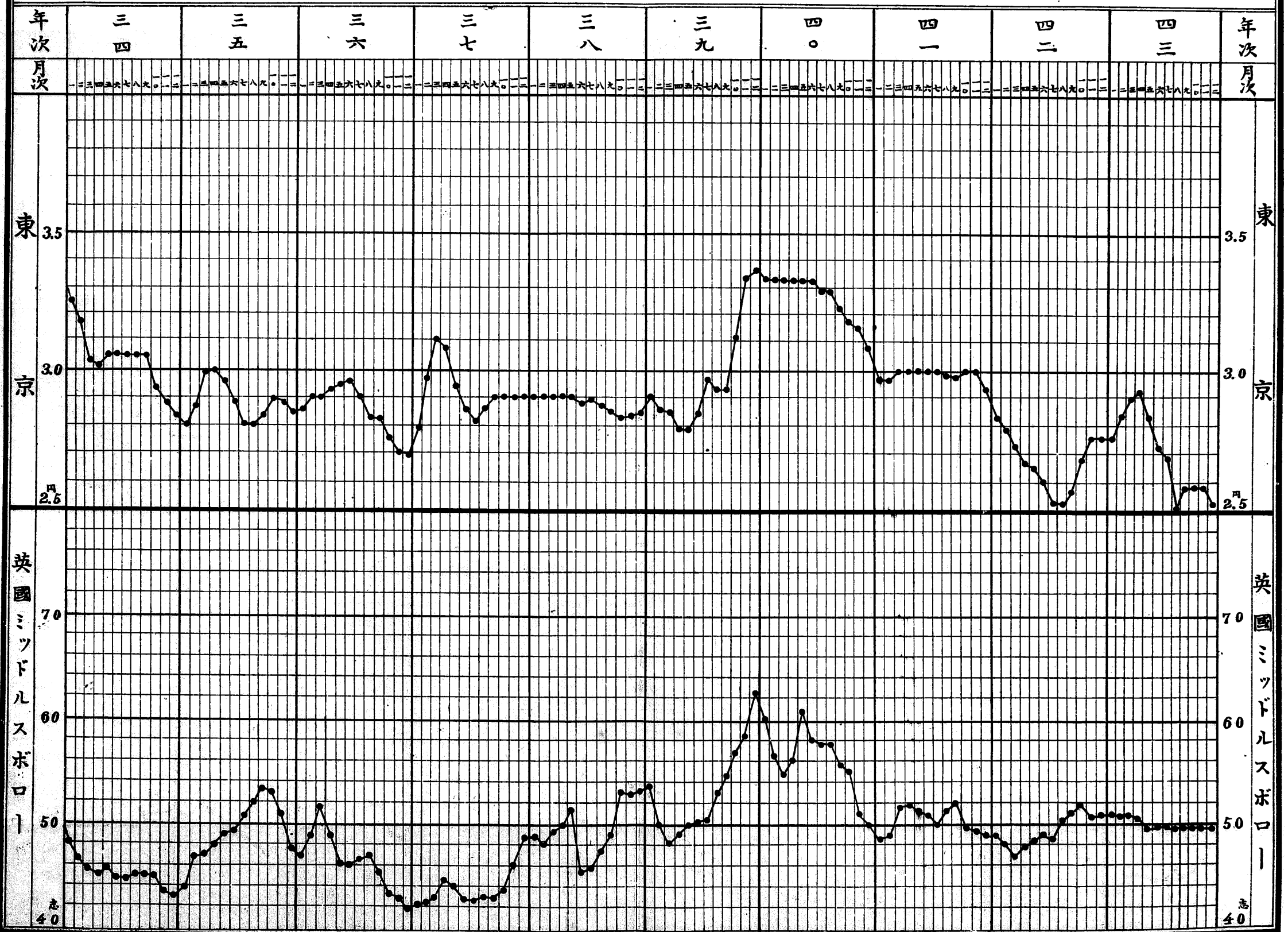
銅 市 價

大阪ハ百斤
倫敦ハ一英噸
紐育ハ一英斤



鐵市價

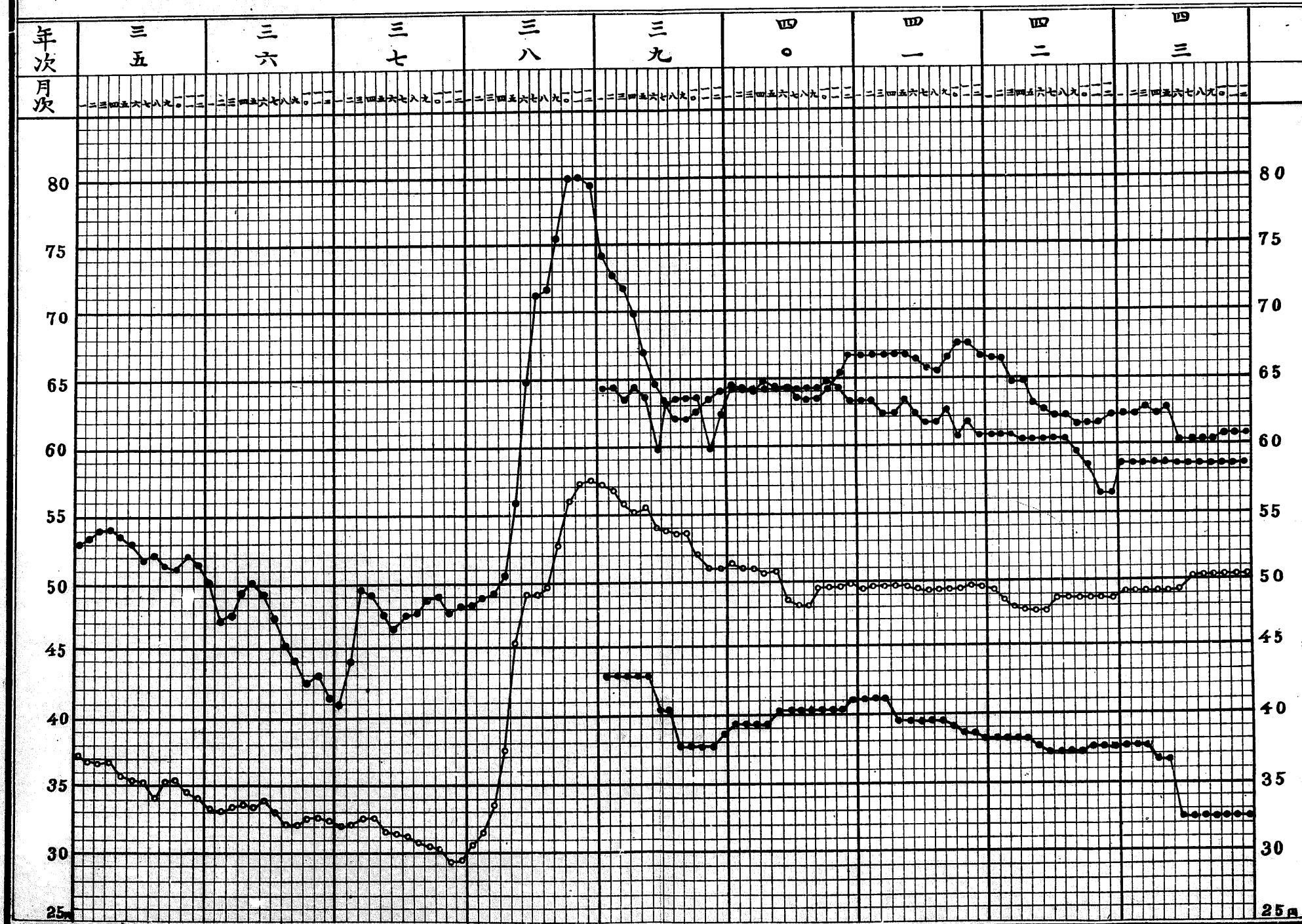
東京ハ洋鐵(九鐵四分)十貫目
英國ハクリーヴランド⁷銳鐵一英噸



- 唐津炭 (東京市場)
- 夕張炭 (小樽市場)
- 坑豊炭 (門司市場)
- 磐城炭 (隅田川市場)

石炭市價

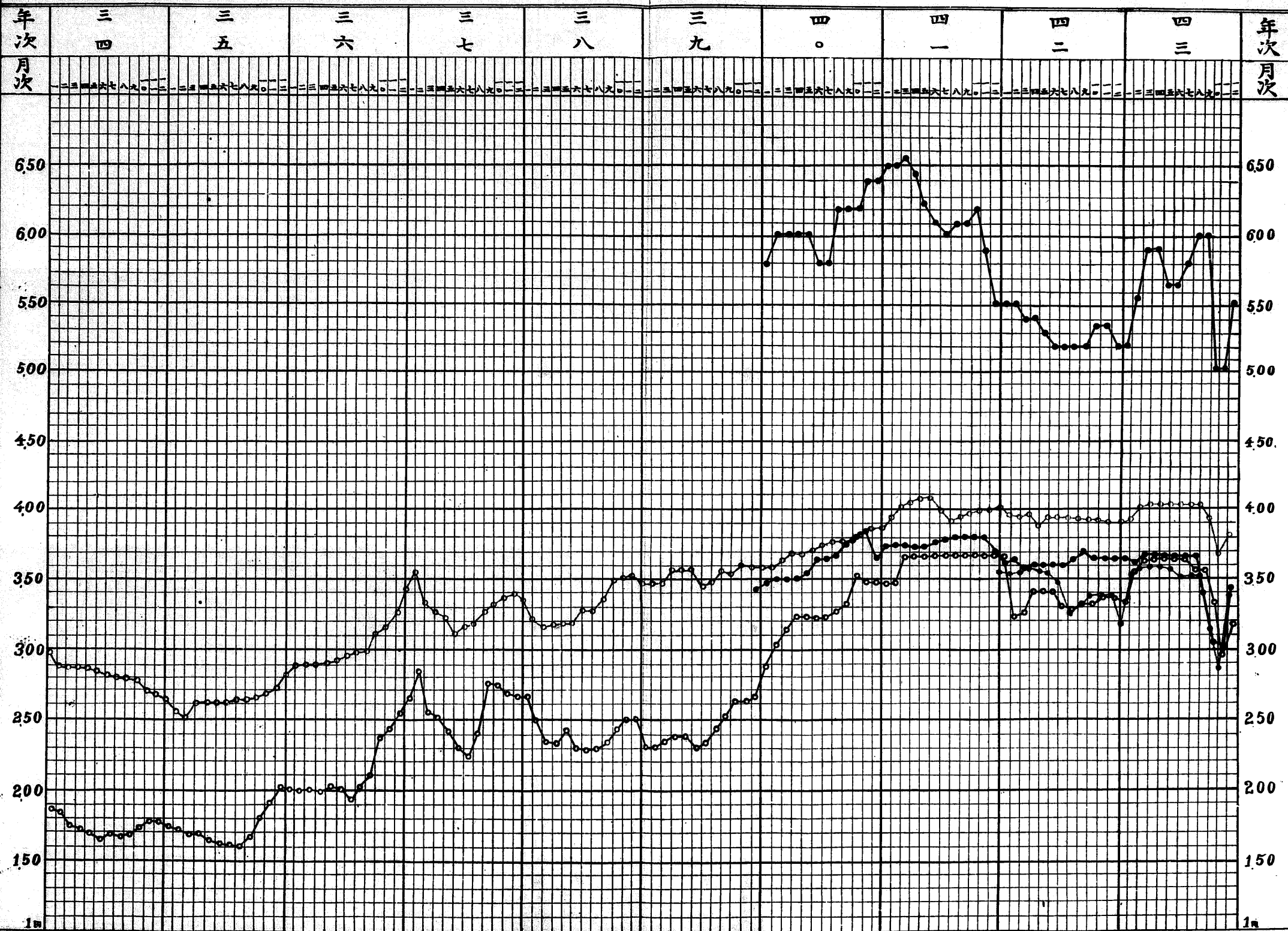
(塊炭一万斤)



石油市價

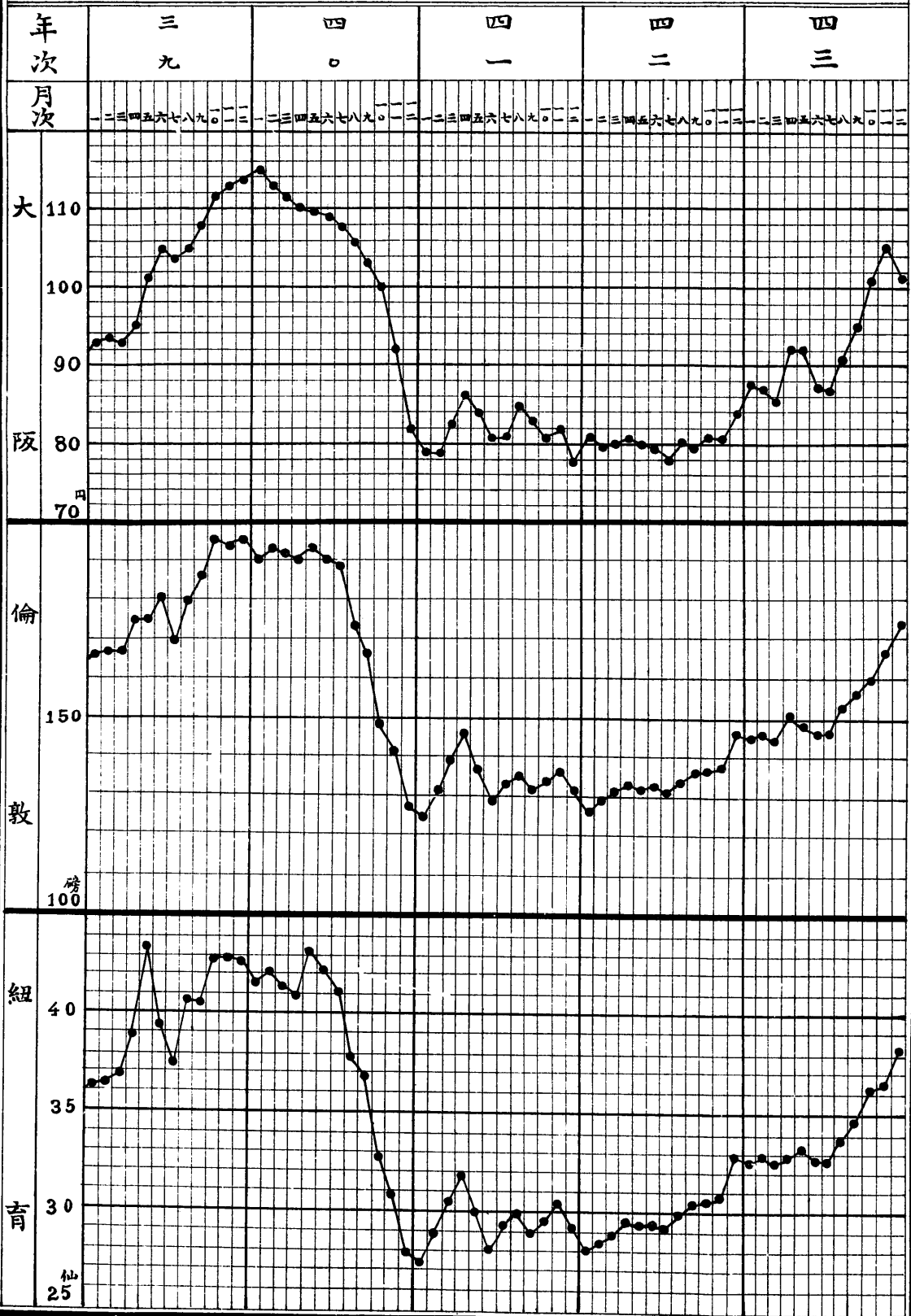
東山原油(浦潮)
 チヤスター油
 タンク油(全)
 青室玉(全)
 黒一羽(全)

原油(一石)長岡市場
 チヤスター(一桶)東京市場
 タンク油(全) 全
 青室玉(全) 全
 黒一羽(全) 全



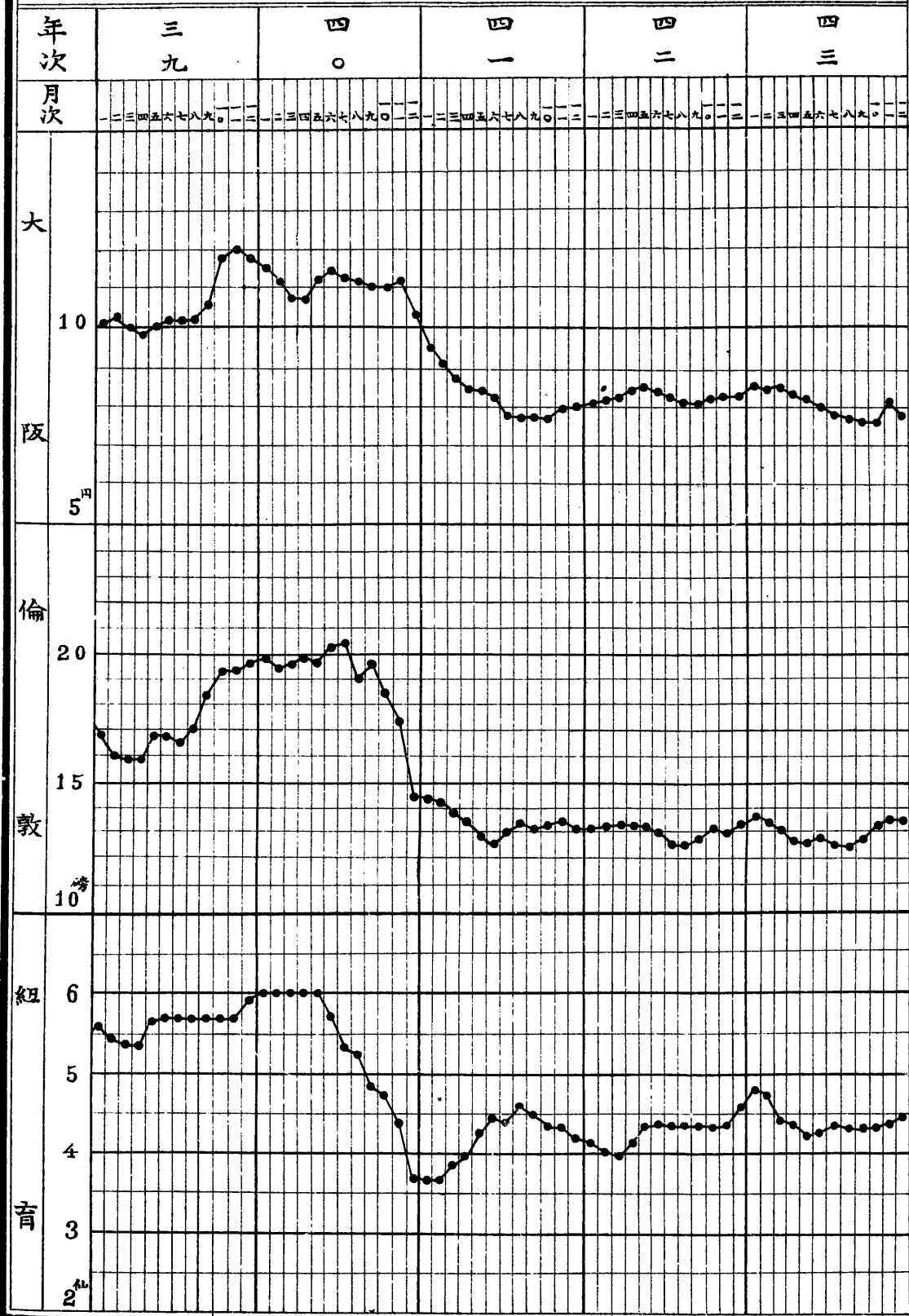
錫市價

大阪ハ百斤
倫敦ハ一英噸
紐育ハ一英斤



鉛 市 價

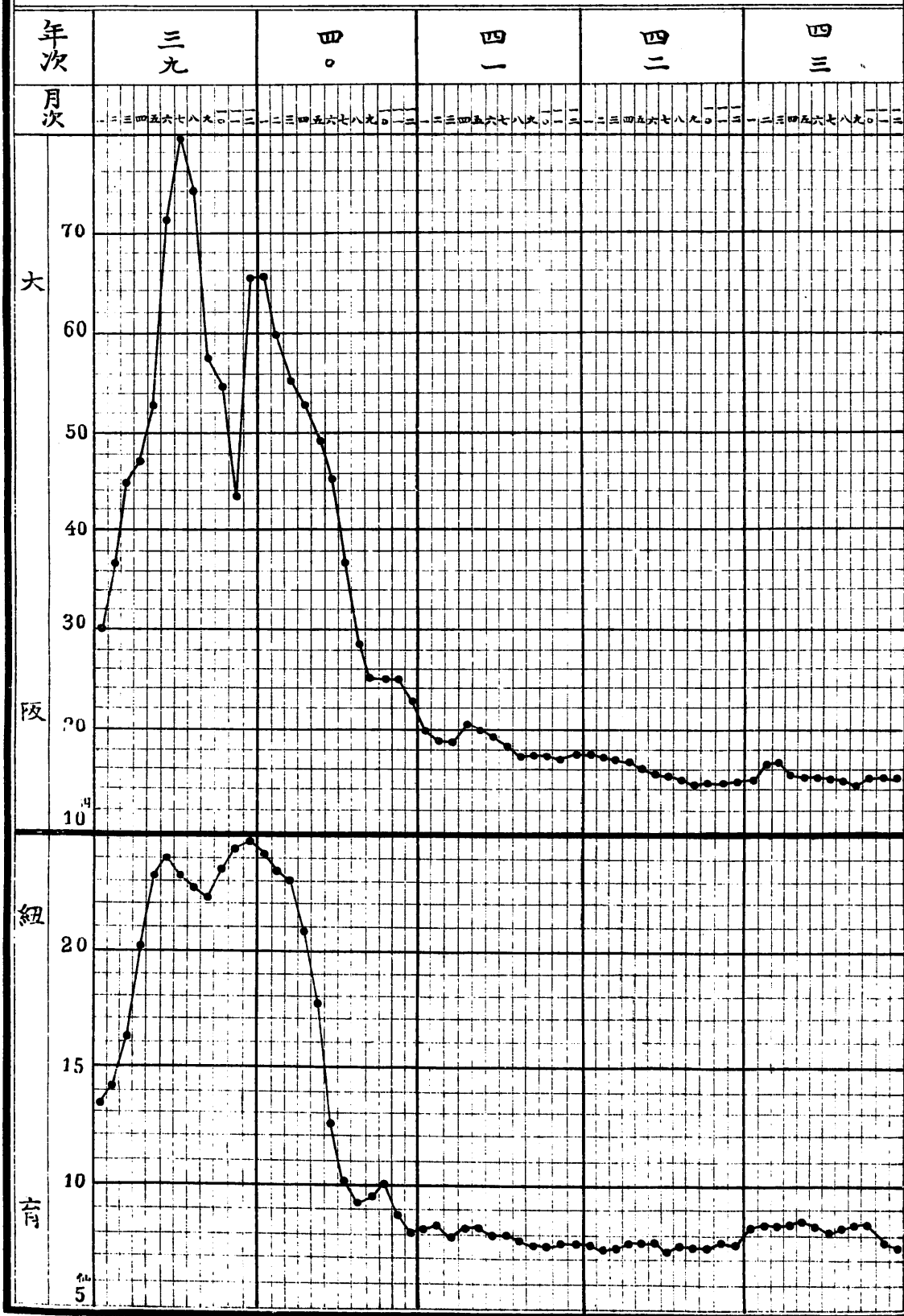
大阪ハ百斤
倫敦ハ一英噸
紐育ハ一英斤



安質母尼市價

大阪ハ百斤

紐育ハ一英斤



第六章 鑛產物ノ市價

四十三年中ニ於ケル鑛產物ノ市況ハ前年ニ比シ稍順調ニシテ恢復ノ氣運既ニ萌セルヲ認メラル、モ其程度猶遲々トシテ未タ充分ニ鑛業界ヲ潤ハスニ至ラサリキ今主要鑛物ノ商勢ヲ察スルニ銀塊ハ例年ノ如ク印度并ニ清國筋ノ投機ニヨリ劇シキ相場ノ高低アリシモ印度ノ豐作清國產業ノ發展等ハ大體上銀塊ノ需要ヲ増加スルノ因トナリ結局一ケ年ヲ通スル平均市價ニ於テ二分九厘ノ騰貴ヲナシ又銅ハ世界ニ於ケル生産過剩ノ爲メ平均市價ニ於テ五分三厘ノ低落ヲ見タルモ本邦精製銅ノ七割以上ヲ占ムル輸出ハ多ク高潮ノ際ニ於テ商談ノ締結ヲ見タルヨリ本邦銅業者ノ實收ニ至リテハ前年ト甚シキ差違ナク寧ロ市價低落ノ爲メ生産費ノ節約ヲ實行セル等却テ良好ノ効果ヲ將來ニ收メタルモノアリ鐵ハ新春及初秋ノ候ニ於テ市價ノ挽回アリタルモ其以外ノ各月ニ於テ漸落ノ步調ヲ辿リ一ケ年ノ總平均價格ハ前年ヨリ七厘ノ増加ヲナセルモ先ツ以テ前年ト同一ナリト云フヲ可トスヘク石油ノ如キハ秋季ノ二箇月間内外油空前ノ大競争アリシモ其以前ニ於テ内外四大會社ノ販賣協約大約半箇年以上ニ繼續シタルヲ以テ其呼値ノ暴落セル割合ニ實際ノ打撃少ク石炭モ亦未タ充分ナル恢復ト云フヲ得サルモ常磐并ニ北海道ノ不振ハ九州炭ノ好況ニヨリ相殺シテ餘リアルヘク其他硫黃、原油、錫、亞鉛ノ如キ皆幾分ノ騰貴ヲナセリ只鉛及安質母尼ノ二品ノミ僅カニ多少ノ低落ヲナセルモ本邦ニ於ケル此等二品ノ生産額甚タ大ナラサルヲ以テ其影響モ亦極メテ微々タルモノナリトス今本邦各市場ニ於ケル最高最低價格ノ最近二箇年間ノ對照ヲ記スレハ次ノ如シ

種	別	四十二年				平		均
		最高	最低	最高	最低	四十三年	四十二年	
銀	大阪一貫	十一月 一四〇・九九〇	二月 一二三・〇五〇	十二月 一三三・五七〇	十月 一三〇・〇六〇	一三五・四一〇	一三二・五八〇	割合(△印) 〇・二九
銅	大阪百斤	一月 三三・九〇〇	七月 三〇・八五〇	一月 三三・二五〇	十月 三一・三六〇	三二・九一〇	三二・〇八〇	〇・五三
鐵丸鐵四分	東京十貫	四月 二・九四〇	八月 二・四七〇	一月 二・八三〇	七月 二・五四〇	二・七〇〇	二・六八〇	〇・〇七
錫	大阪百斤	十一月 一〇五・五七〇	三月 八五・七〇〇	十二月 八三・九〇〇	七月 七八・一七〇	九二・七四〇	八〇・五九〇	一・五一
鉛	大阪百斤	一月 八・六〇〇	九月 七・八三〇	五月 八・六四〇	九月 八・一〇〇	八・一六〇	八・三五〇	〇・三三
亞鉛	大阪百斤	一月 一六・六〇〇	七月 一五・七三〇	十二月 一六・四〇〇	七月 一四・四八〇	一六・〇三〇	一五・〇七〇	〇・六四
安質母尼	大阪百斤	三月 一六・一三〇	九月 一四・八五〇	一月 一七・九五〇	九月 一四・四三〇	一五・四一〇	一五・八八〇	〇・三〇
硫黃	函館一噸	十一月 三三・五〇〇	一月 三一・〇〇〇	六月 三〇・五〇〇	一月 二九・五〇〇	三二・〇九〇	三〇・一七〇	〇・六三
石炭九州二種炭	門司一萬斤	九月 五〇・一六〇	一月 四九・〇〇〇	一月 四九・二八〇	六月 四七・七四〇	四九・七一〇	四八・五二〇	〇・二四
石油黑一羽	東京一箱	四月 三五・八〇	十一月 二・八六〇	四月 三・五九〇	八月 三・二七〇	三・四一〇	三・四七〇	〇・一七
原油東山	長岡一石	八月 六〇・〇〇	十月 五・〇〇〇	一月 五・五〇〇	六月 五・二〇〇	五・六七〇	五・三二〇	〇・六六

更ニ主要鑛產物ニ就キ各月ニ亘ル市況ノ梗概ヲ左ニ記述スヘシ

銀

大阪市場ニ於ケル各月ノ平均價格ハ一貫ニ付キ百三十二圓〇五錢(二月)乃至百四十圓九十九錢(十一月)ノ間ニアリテ一箇年ヲ通スル總平均價格ハ百三十五圓四十一錢ニ當リ前年ノ總平均價格百三十一圓五十八錢ニ比シ三圓八十三錢ヲ騰貴セリ今之レカ趨勢ヲ達觀スルニ二月及九月ニ於ケル一小

波瀾ヲ除クノ外前年ニ比シ概シテ順調ニシテ手堅ク市價常ニ昂騰ノ傾向ヲ有シ一月ニ於ケル平均價格百三十二圓二十四錢ハ漸次昇騰シテ十一月ニハ百四十圓九十九錢トナリ其ノ值幅實ニ八圓七十五錢ノ多キヲ示シタリシカ年末ニ及ヒ印度棉花并ニ滿州大豆ノ輸出季節例年ニ比シ遲延セルカ爲メ東洋ニ於ケル銀塊ノ需要豫期ノ如クナラス外國相場ノ低落ト相伴フテ、次低調ヲ示スニ至リタリ

大阪及倫敦市場ノ月別平均價格并ニ前年トノ對照次表ノ如シ

月	次	大 阪 (一貫)		倫 敦 (一オンス)	
		四 十 三 年	四 十 二 年	四 十 三 年	四 十 二 年
一	月	一三二・二四〇 ^月	一三一・七四〇 ^月	二四・一五四 ^片	二三・八四三 ^片
二	月	一三一・〇五〇	一三一・九一〇	二三・七九四	二三・七〇六
三	月	一三二・二二〇	一三〇・九六〇	二三・六九〇	二三・二二七
四	月	一三二・二二〇	一三一・二四〇	二四・四八三	二三・七〇八
五	月	一三五・七三〇	一三三・〇五〇	二四・七九七	二四・三四三
六	月	一三六・一二〇	一三二・七三〇	二四・六五一	二四・一六六
七	月	一三六・四五〇	一三〇・三六〇	二五・〇三四	二三・五一九
八	月	一三六・五三〇	一三一・〇五〇	二四・四二八	二三・五八八

九	月	一三五·四五〇	一三一·六一〇	二四·五六七	二三·七四三
十	月	一三八·〇五〇	一三〇·〇六〇	二五·五九六	二三·五〇二
十	月	一四〇·九九〇	一三〇·七四〇	二五·六八〇	二三·三五一
十	月	一三六·八七〇	一三三·五七〇	二五·一六〇	二四·〇三〇
平 均		一三五·四一〇	一三一·五八〇	二四·六七〇	二三·七〇六

更ニ各月ニ亘レル倫敦市場ノ概況ヲ見ルニ一月ノ市場ハ二十四片四分ノ一ヲ以テ始マリ印度市場ノ需要并ニ英蘭銀行ノ公定利子引下等ノ好材料アリテ市價頗ル底強ク二十四片内外ヲ上下シテ二月ニ入り清國ノ陰曆正月ノ爲稍小康ノ觀アリシカ英蘭銀行再度ノ利下ニヨリ一般ニ金利ノ前途ヲ樂觀スルモノ多ク茲ニ漸ク買氣配ヲ生シ同十八日ニハ遂ニ二十四片十六分ノ三トナレリ

然ルニ印度政府ハ清國ノ阿片禁止ノ爲ニ失ヒタル財源ノ補填ヲ得ムカ爲ニ同二十五日ヲ以テ突然銀塊ノ輸入稅率増加ヲ發表シ同日着港セル四十五萬弗ノ銀塊ニ對シ直ニ之レヲ實施セシカハ銀塊市場ノ驚愕一方ナラス而カモ其増加率ノ頗ル多大ニシテ從價一割一分ノ割合ニ當レルヨリ印度需要ノ減退ヲ豫想スルモノヲ生シ價格爲メニ崩落シテ二十四片ヨリ急轉直下シテ二十三片十六分ノ七トナリ幾クナラスシテ二十三片十六分ノ三ニ下リ以テ三月一日ニ及ヘリ之ヲ當年中ニ於ケル現物市價ノ最低相場トス

由來印度人ノ銀ニ對スル嗜好ハ先天的ニシテ苟クモ其餘裕ノ許ス限リ之ヲ藏置スルノ慣習アルノ

ミナラス其用途ノ範圍亦頗ル廣ク殆ント必需品タルノ觀アレハ區々タル關稅ノ増加ハ到底永ク其ノ欲望ヲ制限スル能ハサルヘク且當時印度市場ノ在貨ハ僅ニ三萬六千「バース」ニシテ當年ノ秋作亦未タ必スシモ悲觀スヘキニアラサレハ印度正金銀行ヲ後楯トセル「シンジケート」ハ之レニ希望ヲ屬シ秋季ニ於ケル印度政府ノ鑄貨用銀塊ノ需要ヲ期待シテ徐々ニ先物買ヲ企テ孟買及倫敦ノ同類者ト氣脈ヲ通シ東西相呼應スルニ至レリ爲之ニ三月二十二日ノ相場ハ現物、先物トモニ二十四片ニ挽回シ支那ノ小口買ト相埃チテ四月初ヨリ漸次高氣配ヲ現ハシ同十五日ニハ二十四片十六分ノ九トナレリ

五月初ニハ英國先帝陛下崩御ノ發表アリ又清國ノ圓銀鑄造令ノ公布アリシモトモニ市場ニ甚シキ影響ナク中旬ニ至リ支那筋ヨリ二箇月ノ先物百萬「スターリング」ノ賣放アリ印度「シンジケート」カ之レヲ買占メタルハ稍市場ノ注目ヲ惹キ六月ニ至リ清國ノ兩相場ハ新タニ鑄造セラルヘキ新貨ニ對シ隱然打歩ヲ生セムトスルノ風評アリテ倫敦ニ於ケル清商ノ賣トナリ市況稍堅實ヲ欠クニ至レリ七月初旬ニ入り印度貿易風ノ經過良好ニシテ秋作モ大體ノ見込付キタレハ又々印度「シンジケート」ノ買煽リトナリ其數量二百五十萬「ポンド」ト稱セラル且ツ曩ニ支那筋ヨリ引受ケタル銀塊ノ受渡期日漸ク切迫セムトセシモ當時ノ在貨ハ倫敦ニ八十萬「ポンド」孟買ニ百六十萬「ポント」ニシテ合計僅カニ二百四十萬「ポンド」ニ過キサレハ清國側ハ大勢ノ己ニ不利ナルヲ顧ミ俄ニ從來ノ態度ヲ一變シ他ノ賣方ト相連合シテ買戻ヲ試ムルニ至リ市價ハ直ニ奔騰シテ二十五片八分ノ三ヨリ二十五片八分ノ五トナリ「シンジケート」ノ愈現物引受ヲナサントスルヤ遂ニ現物ト先物トノ間ニ八分ノ七片ノ逆

鞘ヲ生セリ之レヲ七月十一日トス

此狂熱的相場ハ直ニ亞米利加精製業者ノ銀塊輸出ヲ馴致シ翌日其報倫敦ニ傳ハルト共ニ市價ハ忽チ二十五片ニ低落シ逆鞘モ亦十六分ノ七片ニ縮小シ同月三十日ニハ二十四片八分ノ五ニ落合ヒテ全ク奔騰以前ノ舊態ニ復セリ

八月及九月中ニハ多少ノ昂低アリシモ「ゴム會社」ノ勃興スルアリテ清國人ノ之レニ投資スルモノ夥シク清國ノ購銀力ヲ減殺シ印度「シンジケート」モ亦形勢ヲ傍觀シテ甚シキ飛躍ヲ試ミサリシヲ以テ市價ノ動搖少ク二十四片八分ノ七乃至二十四片十六分ノ三ノ間ヲ辿リタリ

十月初旬獨逸ニ補助貨鑄造ノ爲ニ銀塊ノ需要アリ又露國并ニ中央亞細亞ニモ新需要アリテ悉ク孟買ヨリ之ヲ供給セルヲ以テ俄ニ印度市場ノ在貨ヲ減少シ又貿易風モ全ク適順ニ通過シ充分ナル雨量アリテ清國及印度ノ秋作ノ豐饒愈確實トナリタルヨリ清國筋ノ買占運動アリ印度筋ノ之レニ對スル競争アリテ市場俄ニ景氣付キ八日ニハ二十四片十六分ノ十五ニ上リ十三日二十五片十六分ノ十一ヲ報シ佛國政府ノ三萬「ポンド」ノ購入并ニ加奈太ノ新貨鑄造令發表等ノ好材料ヲ得テ十八日更ニ二十六片ニ進ミ其翌々二十日ニハ二十六片四分ノ一トナレリ之レヲ當年中ニ於ケル現物相場ノ最高トス

十月末ニハ上海ノ市場ニ一小恐慌ヲ生シ氣配稍挫ケテ二十五片十六分ノ十一トナリ十一月ニ入り桑港ヨリ上海ニ百五十萬「ポンド」ノ銀塊ノ大移入アリテ漸次低調ヲ呈シ月末廿四日ニハ二十五片四分ノ一ニ傾キ年末ニ及ヒ印度棉花并ニ滿州大豆ノ輸出案外ニ遲延シテ銀塊ノ需要ヲ喚起セサルヨ

リ市場益々寂寞トナリ加フルニ軟派ノ賣崩アリテ二十五片十六分ノ一トナリ當年ヲ終レリ之レヲ要スルニ市場ノ大半ハ印度并ニ清國側ノ投機者ノ爲ニ掌握セラレタルモ印度、清國及歐洲ニ於ケル真正ノ需要モ概シテ前年ヨリ多ク最低二十三片十六分ノ三ヨリ最高二十六片四分ノ一ニ及ヒ總平均價格二十四片十六分ノ十一トナリ前年ノ最低二十三片十六分ノ一、最高二十四片八分ノ七ニ比シ最低、最高共ニ高値ヲ示シ其總平均價格亦一片ノ騰貴ニ當レリ

銅

大阪市場ノ月別平均價格ハ百斤ニ付一月ノ三十二圓九十錢ヲ最高トシ七月ノ三十圓八十五錢ヲ最低トシテ一箇年ヲ通スル總平均價格三十一圓九十一錢ニ當リ倫敦ノ一英噸當月別價格ハ最高六十磅九二三(二月)最低五十四磅一九四(七月)ノ間ニアリテ總平均五十六磅九九五ニ當レリ之レヲ前年ニ比スレハ大阪倫敦トモニ稍低落ヲ示セリト雖トモ本那銅業者ハ前年來ノ形勢ニ鑑ミ克ク商談締結ノ時機ヲ愆ラサリシヲ以テ總產額ノ七割以上ヲ占ムル輸出ハ過半順當ニ行ハレ百斤當輸出總平均價格ノ如キ前年ノ三十五圓四錢八厘ニ對シ當年ハ三十五圓三錢六厘ニシテ其差僅カニ百斤一錢二厘ニ過キサリシノミナラス生產費ノ節約其他產額ノ伸縮ニ充分ノ手加減ヲ加ヘタルヲ以テ呼値ノ幾分低落ヲ告ケシニ拘ハラス比較的ニ影響少ク大阪市場ハ一タヒモ在貨ノ停滯ヲ嘆シタルコトアラサリキ

大阪及倫敦ノ月別平均價格并ニ前年トノ對照ヲ記スレハ左ノ如シ

月次	大阪 (百斤)		倫敦 (一英噸)	
	四十三年	四十二年	四十三年	四十二年
一	三三・九〇〇	三三・二五〇 ^円	六〇・九二三 ^磅	六一・一九七 ^磅
二	三三・五四〇	三三・五三〇	五九・三八八	五七・八六八
三	三三・八〇〇	三一・四〇〇	五九・二一四	五六・二三一
四	三三・二八〇	三一・八七〇	五七・二三八	五七・三六三
五	三三・二一〇	三三・三三〇	五六・三一三	五九・三三八
六	三一・八八〇	三二・五四〇	五五・三一〇	五九・六二七
七	三〇・八五〇	三二・一五〇	五四・一九四	五八・五五六
八	三一・一一〇	三一・五三〇	五五・七三三	五九・三九三
九	三一・〇八〇	三一・六八〇	五五・二〇七	五九・〇二一
十	三一・五六〇	三一・三六〇	五六・七二二	五七・五五一
十一	三一・九七〇	三一・九〇〇	五七・六三四	五八・九一七
十二	三一・六八〇	三二・三七〇	五六・〇六九	五九・九〇六
平均	三一・九一〇	三二・〇八〇	五六・九九五	五八・七四七

更ニ各月ノ概況ヲ記スレハ前年末ヨリ英佛銅業者間ニ産額制限同盟ノ風説アリ米國ニハ「アマルガ

メーテツド會社長「ジョンライアン」氏ヲ中心トシ「ロツクフェラー」一派及「ガツケンハイム」一派ノ合同シテ銅ノ賣買并ニ需要供給ノ調節ヲ計ルヲ目的トスル銅「コンピネーション」成立ノ噂市場ニ傳ヘラレテ新春ノ氣配頗ル宜シク倫敦市場ハ六十二磅十五志ノ初手合ヲ以テ始マリ越ヘテ中旬ニ及ヒシカ該合同成立ハ米國現大統領ノ政策ニ反スルカ爲メ其實行覺束ナク容易ニ事實トナラサルヘシトノ報アリテ硬派ノ釣上策頓カニ挫折シ同時ニ倫敦ノ滯銅益増加セムトスルノ趨勢アルヨリ市價漸次低調ニ落入リタリ當時大阪市場ハ前年好氣配ノ際先物トシテ賣約ヲ了セル後ナリシカハ在荷至テ少ク何等實際ノ影響ナカリシモ取引自ラ杜絶シテ延丁銅大和丸ヲ除キ各品トモ五十錢下ケヲ傳ヘ九七物三十三圓見當トナレリ

二月初旬倫敦市場ハ六十一磅十志前後ヲ上下シ大阪ニハ内地需要者ノ買崩アリシカ在荷少クシテ纏タル取引ナク中旬ヨリ下旬ニ及ヒ外國相場ノ高低ニ伴ヒ時々呼値ノ上下アリシモ特記スヘキコトナクシテ三月末トナリ米國銅業者ノ合同談進捗ノ報ニ原因スル倫敦相場ノ昂進ト共ニ大手筋千七八百屯ノ輸出アリテ聊カ景氣付キ在荷手薄ノ折柄山元トノ買出談モアリテ稍好況ヲ呈セリ四月ヨリ五月ニ及ヒ倫敦市場ニハ滯銅ノ劇増米國銅業者軋轢ノ風説先帝ノ大葬等幾多ノ軟材料續出シ市價漸次低落シテ其極五十五磅十五志内外トナリシカ内地市場ニ在リテハ新年度ニ入リタルカ爲メ鎮守府砲兵工廠其他官廳ノ入札アリ又清國ノ銅貨鑄造用トシテ天津ニ輸出セルモノ等アリテ相應ノ好況ヲ呈セリ

六月ノ市況ハ倫敦并ニ大阪トモ極メテ悲觀的ニシテ相場ハ次第ニ低調ニ傾キ時ニ投機者ノ釣上ケ

ナキニアラサリシモ何レモ効果ヲ奏セスシテ七月ニ入り米國上半季間ニ於ケル銅統計ノ發表アリ
產額在荷トモニ各月増加ノ趨勢ヲ示セルノミナラス同時ニ米國ノ「アマルガメー」テット會社カ從來
固執セル一封度十三仙ノ市價ヲ十二仙二分ノ一ニ値下セリトノ報傳ハリ大口ノ賣崩アリテ倫敦市
場ハ忽チ瓦解ノ姿トナリ買方賣方トモニ惡戰苦闘ヲ試ミ五十二磅十五志ト云フ空前ノ安値ヲ報セ
リ爲之ニ從來比較的ニ強硬ナリシ大阪ノ人氣モ遂ニ銷沈シテ各種ヲ通シ三十錢乃至五十錢ノ暴落
ヲナスノ己ムヲ得サルニ至レリ然ルニ下旬ニ及ヒ米國ノ產銅制限同盟說ハ「モルガン」氏ヲ中心トシ
テ再燃シ歐洲ノ主要ナル銅業者ト提携シテ愈確的ニ實行ニ著手スルニ至リタルヲ以テ漸ク沮喪セ
ル氣配ヲ恢復シ五十五磅十志ニ盛り返シタリ

八月及九月中ハ内外トモニ甚シキ動搖ナク五十五六磅内外ヲ彷徨シテ十月ニ及ヒ獨逸佛蘭西ニ於
ケル電氣事業ノ盛況倫敦滯銅ノ減少等ノ事實ヲ得テ漸ク一般ノ買氣ヲ促シ市價モ亦五十八磅十七
志六片ニ達セリ大阪ニ於テモ久々ニテ商談成立シ弗々小輸出アリ十一月中ハ各國ノ製艦需用并
ニ「クリスマス」ノ前景氣滯銅ノ縮小等ニヨリ比較的ニ順調トナリ市價五十七磅十七志内外ヨリ五十
八磅十志前後トナリ内地市況モ亦相應ニ賑ヘリ越ヘテ十二月ニ入り歲晩ノ高値ヲ見越シ倫敦ニ於
ケル米國筋ノ買煽アリ英國側ノ之レニ應スル賣放アリテ一時活況ヲ呈シタリシカ年末ニ及フニ從
ヒ漸次不況ニ赴キ内地モ亦閑散ヲ極ムルニ至レリ

鐵

本邦ノ洋鐵市場ハ一月ヨリ三月ニ至ルマテ概シテ在荷薄ナリシト英米ニ於ケル好氣配トニ依リ銑鐵并ニ鋼鐵トモニ漸次騰貴ノ傾向ヲ有シ日歐間ノ汽船運賃モ亦騰貴シタルヲ以テ前途ヲ見越シ多大ノ輸入注文ヲ發シタリシカ内地ノ需要存外引立タサリシ爲メ四月頃ヨリ商勢一頓挫ヲ爲シ本國相場ノ下落ト相俟ツテ益軟調ニ變シ越ヘテ農繁ノ季節トナルニ及ヒ地方ノ積出一層閑散トナリ約定品ノ入津頻々トシテ到着スルヨリ愈不況ヲ極メ此ノ趨勢ヲ持續シテ八月ニ及ヘリ八月ニハ關東并ニ東北地方ニ稀有ノ大水害アリ地方ノ交通杜絶シテ甚シク需要ヲ減退セシカ秋季ニ入り需要季節ノ到來ト水害後ノ交通恢復ノ爲メ停滯貨物一時ニ出捌ケ在荷頓カニ減少シ市價モ亦幾分引直リタリ十月ヨリ十一月末ニ至ルマテハ市況甚々振ハス市價亦保合ノ有様ニ陥リタリシカ年末ニ近クニ及ヒ在荷漸ク潤澤トナリ需要之レニ伴ハス幾分ノ低落ヲ爲シテ越年シタリ今各月ニ於ケル丸鐵并ニ「レツドカー」ノ平均價格ヲ記スレハ左表ノ如シ

月次	東京丸鐵四分(十貫)		横濱「レツドカー」(百斤)	
	四十三年	四十二年	四十三年	四十二年
一月	二七六〇 ^四	二八三〇 ^四	二・一〇〇 ^四	二・二〇〇 ^四
二月	二八三〇	二七九〇	二・一四〇	二・一五〇

平	十	十	十	九	八	七	六	五	四	三
均	二	一								
二・七〇〇	二・五四〇	二・五八〇	二・五八〇	二・五八〇	二・四七〇	二・六九〇	二・七二〇	二・八三〇	二・九四〇	二・九〇〇
二・六八〇	二・七六〇	二・七六〇	二・六九〇	二・五八〇	二・五四〇	二・五四〇	二・六一〇	二・六五〇	二・六九〇	二・七二〇
二・二六〇	二・二九〇	二・二九〇	二・二二〇	二・二四〇	二・二三〇	二・二三〇	二・二四〇	二・二八〇	二・二八〇	二・二八〇
二・一五〇	二・二〇〇	二・二〇〇	二・二〇〇	二・二〇〇	二・二〇〇	二・二〇〇	二・二〇〇	二・三〇〇	二・三〇〇	二・一五〇

錫、亞鉛、鉛、安質母尼

以上四品ノ内鉛及安質母尼ハ一個年ヲ通スル平均價格ニ於テ前年ニ比シ幾分ノ低落ヲナシタルモ各月ノ狀況ヲ通觀スルトキハ大體ニ於テ保合ノ趨勢ヲ示シ市價ノ波動極メテ少ク又錫ト亞鉛トハ共ニ騰貴ヲ爲シ殊ニ錫ノ如キハ年末ニ於テ百斤百六圓ト云フ明治四十年以來ノ新高値ヲ現ハシタ

リ錫ノ斯ノ如キ暴騰ヲナシタルハ主トシテ銀塊相場ノ騰貴ニ跟隨セルモノナルモ近年ブリキ板ノ需要増加ニ伴ヒ錫ノ需要ヲ増進シタルニ反シ新嘉坡附近ノ產地ニアリテハ護謨栽培ノ事業大ニ起リ勞働者缺乏ノ爲メ產額ノ充分ナラサルモ亦其因ヲナセルカ如シ

今各月別ノ平均市價及前年トノ對照ヲ記スレハ次ノ如シ

錫

月次	大 阪 市 場 (百斤)		紐 育 市 場 (一封度)	
	四 十 三 年	四 十 二 年	四 十 三 年	四 十 二 年
一 月	八七八四〇 ^円	八一・二六〇 ^円	三二・七〇〇 ^仙	二八・〇六〇 ^仙
二 月	八七四〇〇	七九・九三〇	三二・九二〇	二八・二九〇
三 月	八五七〇〇	八〇・三二〇	三二・四〇三	二八・七二七
四 月	九二・〇九〇	八〇・九三〇	三二・九七六	二九・四四五
五 月	九二・〇〇〇	八〇・三〇〇	三三・一二五	二九・二二五
六 月	八七・五〇〇	七九・七三〇	三二・七六九	二九・三二二
七 月	八六・一九〇	七八・一七〇	三二・六九五	二九・一二五
八 月	九〇・六五〇	八〇・四七〇	三三・九七二	二九・九六六
九 月	九四・九八〇	七九・九六〇	三四・九八二	三〇・二九三
十 月	一〇一・二四〇	八〇・八七〇	三六・一九〇	三〇・四七五

平	十	十
均	二	一
月	月	月
九二・七四〇	一〇一・六九〇	一〇五・五七〇
八〇・五九〇	八三・九〇〇	八一・三三〇
三四・一二三	三八・一九九	三六・五四七
二九・七二五	三二・九一三	三〇・八五九

亞鉛

月	次	大 阪 市 場 (百斤)	倫 敦 市 場 (一噸)
一	月	一六・六〇〇 _四	二二・三三五〇 _磅
二	月	一六・四二七	二二・一八八
三	月	一六・〇六五	二二・〇三一
四	月	一五・八一四	二二・四六九
五	月	一五・八〇〇	二二・一〇〇
六	月	一五・七五五	二二・〇九四
七	月	一五・七二六	二二・四〇六
八	月	一五・七八二	二二・八〇〇
九	月	一六・一四七	二二・一六五
十	月	一六・二二四	二二・九〇〇
十一	月	一四・七四一 _四	二二・四二五 _磅
十二	月	一四・七七五	二二・五六三
一	月	一四・九一四	二二・四三八
二	月	一四・九五三	二二・五三一
三	月	一四・六三六	二二・九七五
四	月	一四・五七四	二二・〇〇〇
五	月	一四・四七九	二二・九六九
六	月	一四・七四九	二二・一二五
七	月	一五・〇七八	二二・九〇六
八	月	一五・四九二	二二・二〇〇

平	十	十
均	二	一
月	月	月
一六・〇二六	一五・九〇〇	一六・二七二
一五・〇六六	一六・四〇〇	一六・〇〇〇
二三・〇五〇	二四・〇一九	二四・〇八三
二二・二〇一	二三・〇九四	二三・一八八

鉛

月	次	大 阪 市 場 (百斤)	倫 敦 市 場 (一噸)	紐 育 市 場 (一付度)
一	月	八・六〇〇 _円	一三・六五〇 _磅	四七・〇〇 _仙
二	月	八・五八〇	一三・三二八	四六・一三
三	月	八・五九〇	一三・〇六三	四四・五九
四	月	八・三六〇	一二・六四一	四三・七六
五	月	八・一七〇	一二・五五〇	四三・一五
六	月	八・〇〇〇	一二・六八八	四三・四三
七	月	七・九七〇	一二・五三一	四四・〇四
八	月	七・九二〇	一二・五一三	四四・〇〇
九	月	七・八三〇	一二・五八二	四四・〇〇
十	月	七・八八〇	一三・〇九一	四四・〇〇
四十三	年	八・一六〇 _円	一三・一一三 _磅	四・一七五 _仙
四十二	年	八・二五〇	一三・三一一	四〇・一八
四十一	年	八・三七〇	一三・四三八	三九・八六
四十	年	八・五二〇	一三・二九七	四一・六八
三十九	年	八・六四〇	一三・二二五	四二・八七
三十八	年	八・四七〇	一三・〇三一	四三・五〇
三十七	年	八・三二〇	一二・五六三	四三・二一
三十六	年	八・一三〇	一二・四七五	四三・六三
三十五	年	八・一〇〇	一二・七八一	四三・四二
三十四	年	八・三八〇	一三・一七五	四三・四一

十	十	平
一	二	均
月	月	
一五・二〇	一五・一〇	一五・四一〇
一四・五三〇	一四・六八〇	一五・八八〇
七・八四二	七・五一四	八・二八七
七・六八七	七・六八七	七・六三二

石 炭

前章ニ記述セル如ク四十三年中ノ總產額ハ無慮千五百五十三萬餘噸ニシテ前年ノ千五百四萬餘噸ニ對シ大約五十萬噸ヲ増加シ輸出ハ二百七十九萬餘噸ニシテ前年ノ二百八十四萬餘噸ニ對シ五萬噸内外ノ減少ヲナセルニ反シ全國主要市場ニ於ケル年末貯炭高ハ僅カニ五十萬噸前後ニシテ前年末ノ八十九萬餘噸ニ比シ甚シキ減少ヲ示セリ之即チ事業界ノ恢復ニ伴ヒ内地需要ノ甚タ盛況ナリシヲ語ルモノニシテ明治三十八年以來永ク悲境ニ沈淪セル本邦ノ炭業界ハ漸ク愁眉ヲ開クノ域ニ達セルモノト見ルヲ得ヘシ

一般ノ商勢斯ノ如ク順調ナリシニ拘ハラス外ニハ撫順炭、清國炭及印度炭ノ壓迫アリテ内地各種石炭間ノ競争ハ漸次劇烈ヲ加ヘ來リ九州炭、北海炭乃至常磐炭等各或ル地方ニ割據シタルモノ互ニ出テ、他ノ領域ヲ蠶食セムトシ從來ノ分野ハ將ニ一大變革ヲ見ムトスルニ至レリ爲之ニ市價ハ充分ノ發展ヲナス能ハス前年ニ比シ九州一種炭、二種炭ニ於テ一分六厘乃至二分四厘ノ騰貴ヲナシタルノ外何レモ多少ノ下落ヲ見サルナク磐城炭ノ如キハ大約一割ノ大下落ヲナシタリ

今月別炭價表并ニ前年トノ對照ヲ記スレハ次ノ如シ

月別炭價表

月別	九州炭 (門司一種)										同 (東京)	磐城炭 (隅田川)		夕張炭 (小樽)	
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	總平均	四十三	四十二
一	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
三	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
四	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
五	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
六	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
七	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
八	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
九	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
十	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
十一	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
下半季平均	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三
總平均	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三	四十二	四十三

備考 東京市場ハ唐津上塊ノ小賣相場、隅田川市場ハ入山並塊炭ノ卸賣相場ナリ

四十三年平均炭價ノ前年ニ對スル比較表

炭種	九州炭					市場	平均十三年	平均十二年	比較高低	割同合上(△印) 合下(△低)
	一 種 炭	二 種 炭	三 種 炭	同 城 炭	夕 張 炭					
	門司	東 京	隅 田 川	小 樽						
	五五・二一〇 ^円	四九七・一〇	三九・二九〇	六一・二五〇	三四・二九〇	五八・二〇〇				
	五四・二一〇 ^円	四八・五二〇	四〇・三九〇	六三・二九〇	三七・四九〇	五九・一八〇				
	九〇〇 ^円	一一・一九〇	一一・〇〇〇	二・二四〇	三・二〇〇	九八〇	△	△	△	△
	〇・二六 ^割	〇・二四	〇・二七	〇・三四	〇・九五	〇・二七	△	△	△	△

更ニ各月ニ亘リ市價ト關係アル一二ノ事實ヲ再說セムニ前年末ニ起リタル濠州炭坑ノ同盟罷工ハ當年ニ入ルモ猶鎮靜セス新嘉坡、香港、布哇、馬尼刺及桑港等ノ各地ニ於ケル貯炭ハ漸次減少シテ九州炭及北海炭ノ海外需要ヲ喚起シ一月ヨリ二月ニ亘リ數回ノ大輸送アリ炭界ノ氣配ハ一時爲之ニ活躍セリ北海道炭ニ對スル鐵道運賃ノ引上及九州炭ニ對スル同運賃ノ引下等皆此ノ際ニ行ハレ主要炭山ノ賛成ヨリ成ル石炭共同販賣ノ議モ亦之レト相前後シテ提唱セラレタリ三月ニ至リ濠洲ノ同盟罷工ハ勞働局ノ仲裁々判ニ付セラル、コト、ナリ終熄シタルモ其繼續期間存外長カ、リシカ爲メ供給ノ恢復容易ナラスシテ依然本邦炭ノ需要アリ門司ノ滯炭亦減少ヲ報セラレテ炭價底強ク四

月ニ入り猶此ノ趨勢ヲ維持セシカ月末ニ及ヒ需要季節ノ經過ト共ニ北海炭及磐城炭ハ漸ク不振ノ色アリ蓋シ北海炭ハ當時室蘭及小樽ニ巨額ノ貯炭ヲ擁シタルニヨリ又磐城炭ハ鐵道院ニ對スル賣込數量ノ新年度ニ入り著シク減少シタルニ因ルナリ五月ヨリ六月ニ及ヒ内地沿岸航路ノ恢復ト共ニ石炭運賃モ亦幾分低落セルヨリ九州炭及北海炭ノ京濱ヨリ群馬、長野ニ入ルモノ益々多ク磐城炭ノ販路ハ之レカ爲ニ少ナカラサル妨害ヲ受ケ各炭ノ間ニ甚シキ競争アリ、東京ヲ中心トスル各地ノ炭價ハ產地ヨリ却テ低廉ナルノ奇觀ヲ呈シタリキ

秋季ニ至リ一般ノ事業界ハ漸ク好況ヲ示シ來リ家庭用炭ノ増加ト相俟テ關東、關西、中國、九州ニ亘リ相應ナル荷動キアリ北海炭ハ清水、名古屋、四日市等ノ九州炭ノ領域ニ侵入シテ頻リニ活動ヲ試ミ茨城炭亦無烟炭ノ合同販賣所ヲ設立シテ自衛ノ策ヲ講シ末タ充分ナル市價ノ騰貴ヲ見スト雖トモ商勢頗ル昂レリ越ヘテ年末ニ及ヒ京濱地方ハ九州炭及北海炭ノ堆積ニヨリ市況稍挫ケタルモ北海道及九州ノ產地ハ在荷ノ減少ニヨリ好氣配ヲ以テ越年セリ

上下各半季末ノ貯炭及前年トノ對照ヲ舉クレハ次表ノ如シ

市場貯炭高表

市 場	上		季	下		季
	四 十 三 年	四 十 二 年		四 十 三 年	四 十 二 年	
門 司	二二二、七三二 <small>英噸</small>	四七九、四一七 <small>英噸</small>	増減割合(△減印)	一六二、六三八 <small>英噸</small>	四〇三、六〇六 <small>英噸</small>	増減割合(△減印)
若 松	一二七、二六五	一七三、一二四	△	九五、三二〇	一四二、七六四	△
			二・六五			三・三二
			五・五六			五・九二

計	銅	室	小	隅	唐	宇
	路	蘭	樽	川	津	島
五〇八、四〇〇	八、九〇八	九六、一八一	五八、八七七	二二、三八〇	六二、〇三八	一四、六二九
八九一、一五九		九三、三五七	四〇、一六一	一三、一七二	八六、一五四	五、七七四
△		〇、三〇	四、六六	七、七五	二、八〇	一五、三三四
四、三〇						
五〇九、七四二	二、六〇五	八七、七七三	四〇、九九九	一七、三四一	八二、三三八	二〇、七二八
八九七、一〇六	三、二二七	一九一、八四二	五二、九五二	一一、五五六	六三、五九七	七二、五六三
△	△	△	△	△		△
四、三一	一九三	五、四二	二、二六	五、〇〇	二、九五	二、四八

石 油

原油 前年來燈油市價ノ下落ニ伴ヒ軟調勝ナリシ原油界ハ新春早々内外石油會社間ニ販賣協約成立セラルヘシトノ報アリテ市價聊カ底強ク二月初旬其愈成立スルヤ俄然二十錢内外ノ騰貴ヲナシ商狀全ク一變セリ二月中旬本邦議會ニ於ケル關稅政正按ハ原油及燈油ニ對スル輸入稅率ヲ現行ノ儘据置クコトニ決シタルヨリ益々石油事業ノ前途ヲ樂觀スルモノ多ク三月ヨリ四月ニ及ヒ既設會社ノ増資并ニ日寶、明治等新會社ノ創立ヲ見ルニ至リ市價モ亦此ノ間ニ於テ騰貴ノ趨勢ヲ示シ四月末新津油田ニ空前ノ大噴油アリテ一時氣配ヲ活躍セシメタリ

五月ヨリ七月ニ至ル間ハ燈油ノ需要期經過ト共ニ例年ノ恒例ヲ趁ヒ幾分低落ヲ見タリシカ八月ニ

ハ忽チ之レヲ回復シ東山原油ノ如キハ當年ノ最高値タル六圓ヲ報スルニ至レリ、九月初旬内外石油會社ノ販賣協約ハ端ナク破綻シタルモ原油ノ市價ニハ格別ノ影響ナク十月ニ入り漸ク逆調ニ傾キ十一月尤モ甚シタ東山原油ハ一圓、新津原油ハ四十錢ヲ暴落シ十二月ニ至リ幾分ノ見直ヲナセリ之ヲ要スルニ當年ノ原油市場ハ販賣協約ノ成立并ニ破綻ニ伴ヒ市價ノ破瀾頗ル大ナリシモ好氣配ノ期間存外長カリシカ爲メ一箇年ヲ通スル平均價格ハ何レモ前年ヨリ増加シ東山原油ハ六分六厘新津原油ハ一割七分内外ノ騰貴ニ當レリ

今各月ノ東山、新津ノ建値并ニ前年トノ對照ヲ記スレハ次表ノ如シ

月次	東山油田		新津油田	
	四十三年	四十二年	四十三年	四十二年
一 月	五・二〇〇 _円	五・五〇〇 _円	二・七〇〇 _円	二・四〇〇 _円
二 月	五・三・五〇〇	五・五〇〇	二・七〇〇	二・四〇〇
三 月	五・九〇〇	五・四〇〇	二・九五〇	二・四〇〇
四 月	五・九〇〇	五・四〇〇	二・九五〇	二・四〇〇
五 月	五・六五〇	五・三〇〇	二・七〇〇	二・四〇〇
六 月	五・六五〇	五・二〇〇	二・七〇〇	二・四〇〇
七 月	五・八〇〇	五・二〇〇	二・八五〇	二・四〇〇

平	十	十	十	九	八
均	二	一			
	月	月	月	月	月
五・六七〇	五・五〇〇	五・〇〇〇	五・〇〇〇	六・〇〇〇	六・〇〇〇
五・三二〇	五・二〇〇	五・三五〇	五・三五〇	五・二〇〇	五・二〇〇
二・七八〇	二・七〇〇	二・四〇〇	二・八〇〇	二・九五〇	二・九五〇
二・三七〇	二・三〇〇	二・四〇〇	二・四〇〇	二・二五〇	二・二五〇

燈油 燈油界ハ前年來ノ内外油競争猶未タ熄マスシテ越年セシカ一月早々米國「スタンダード」會社ノ重役ト英國「アシヤチツク」會社役員トノ間ニ蘇士以東ノ各地ヲ通シ無益ノ競争ヲ避クヘキ申合ヲナシタリトノ報アリ本邦ニ於テモ内外四大燈油會社ノ間ニ販賣協約ヲ成立スヘキ内議アリテ前途頗ル有望ヲ以テ目セラレ東海、九州、東北并ニ北海道ノ各地ニ於テ英米兩會社間ニ競争ヲナシツ、アルニ拘ハラス米油「チャスター」ハ三圓九十錢、英油「タンク」ハ三圓六十六錢、國油青寶玉ハ三圓三十錢、黒一羽ハ三圓十七錢ノ市價ヲ維持シ自ラ底強キ觀アリキ然ルニ該協約ハ二月ニ入り愈々當事者ノ間ニ調印ヲ了シ其實行ニ着手シタルヲ以テ茲ニ全ク局面一變シ各社先ツ賣止ヲ宣言シ其解除ト共ニ徐ロニ市價ノ引上ヲ始メタリ爾後五月ニ至ル迄市價ハ漸次昂騰ノ氣配ヲ以テ進行シ結局協約成立前ノ價格ニ比シ各月ノ平均市價ニ於テ英油「タンク」ハ七錢、米油「チャスター」十三錢、國油青寶玉ハ三十五錢、黒一羽ハ四十一錢ノ値開キヲ見タリ國油ノ外油ニ比シ比較的ニ騰貴率ノ多キハ全ク競争中品

位以上ニ市價ノ引下ヲナシ居タルカ爲メニ之レヲ品位相當ノ價格ニ復セシメタルニ過キスト雖トモ數々賣止ヲ行フテ數々昂騰ヲ策シタルニヨリ一部ノ論者ヨリ「トラスト」ノ暴橫ヲ以テ目セラレタルコトアリキ

六月ヨリ七月末ニ至ルマテハ需要季節ニアラサルカ爲メ市價ハ概シテ保合ノ狀態ニアリシカ各社トモ協約條項ノ遵奉ニ關シ極メテ誠意ヲ表シタルヲ以テ氣配甚タ宜シク在荷ノ關係上「タンク」油ノ如キハ幾分ノ値上ヲ行ヘリ

八月ヨリ九月初旬ニ及ヒ初秋ノ需要ヲ見越シ市價漸次騰貴シタリシカ英米兩社カ印度市場ニ於ケル勢力關係ヨリ營業上ノ衝突ヲ來シ蘇士以東ノ本協約全ク破棄セラレタルヲ以テ「スタンダード」會社ヨリ突然本邦ノ協約解除ノ申込アリ之レ全ク青天ノ霹靂ニシテ本邦ノ燈油市場ハ之レヨリ全ク暗雲ニ包マル、ニ至レリ

九月中旬競爭ハ先ツ九州并ニ關西地方ニ於ケル英米兩石油會社ノ間ニ行ハレ國油兩社ノ根據市場タル信越并ニ京濱地方ハ比較的ニ靜穩ナリシヲ以テ國油ハ暫ク自重ノ態度ヲ取り形勢ノ傍觀ヲナセシカ十月初旬紐育ニ於テ「スタンダード」會社ハ歐洲及極東ニ於ケル多數ノ新設會社ニ對抗スルノ準備全ク整ヒタルヲ宣言シ併セテ全世界ニ對シ極メテ低廉ナル燈油ノ供給ヲナスヘキコトヲ附言セリ是レヨリ本邦ニ於ケル競爭モ亦益々峻惡ニ傾キ次第ニ其戰線ヲ擴大ニシテ東海道及東北地方ニ及ヒ東京モ亦既ニ其渦中ニ投セラレテ内外四大會社ノ混戰トナリ市價ハ日々低落シテ底止スル處ナク割戻、福引、宴會其他有ラユル手段ハ外國兩會社ニヨリ講セラレ平時石油ヲ營業トセサルモノ

マテモ市價ノ低落ニ乗シ潜カニ燈油ノ買占ヲ行フテ投機ヲ試ムルモノヲ生シ形勢全ク常軌ヲ逸スルニ至レリ

以上ノ形勢ハ十一月中旬ニ繼續シ市價ノ暴落其極ニ達シタリシカ英油「ライジンサン」會社ノ在荷全ク空乏ヲ告ケテ豫約ニ對スル現物ノ引渡ヲナス能ハサル窮狀ヲ暴露セルヨリ茲ニ形勢一變シ「スタントード」ハ虎印ニ對シ俄然三十八錢ノ値上ヲ發表シ内地兩油モ亦賣止ヲ行ヒ三十五錢内外ノ値上ヲナシ漸ク競争ノ局ヲ結ヘリ競争ノ終期ニ於ケル國油黒一羽ハ二圓九十五錢ニシテ之レヲ協約ノ最盛時ニ比シ六十三錢ノ下落ニ當リ又青寶玉ハ二圓七十錢ニシテ九十錢内外ノ下落ニ當リ外油亦國油以上ノ低落ヲナセリ

爾後年末ニ至ル間ハ市況漸次常態ニ復シ市價モ亦幾分ノ恢復ヲナセルモ概シテ保合ノ形勢ヲ示シ特ニ記スヘキ事柄ニ乏シ

各月ノ内外油ノ平均市價并ニ前年トノ對照ヲ記スレハ次表ノ如シ

種別		月別		
一	二	三	四	
月	月	月	月	
チヤスター	四十三 年	四十二 年		
	円 三・九〇〇	円 四・〇一〇		
タ ン ク	四十三 年	四十二 年		
	円 三・六六〇	円 三・七〇〇		
青 寶 玉	四十三 年	四十二 年		
	円 三・三〇〇	円 三・六八〇		
黒 全 勝 利	四十三 年	四十二 年		
	円 二・三二〇	円 二・五〇〇		
黒 一 羽	四十三 年	四十二 年		
	円 三・一七〇	円 三・五六〇		
	</			

平 均	十 二 月	十 一 月	十 月	九 月	八 月	七 月	六 月	五 月
三・九五〇	三・八一〇	三・六九〇	三・九二〇	四・〇三〇	四・〇三〇	四・〇三〇	四・〇三〇	四・〇三〇
三・九四〇	三・九〇〇	三・九二〇	三・九三〇	三・九四〇	三・九四〇	三・九四〇	三・九四〇	三・八七〇
三・五五〇	三・四六〇	三・〇二〇	三・〇七〇	三・四〇〇	三・七八〇	三・七八〇	三・七八〇	三・六八〇
三・六四〇	三・六六〇	三・六六〇	三・七〇〇	三・六五〇	三・六〇〇	三・六〇〇	三・六〇〇	三・六〇〇
三・四八〇	三・一八〇	二・九九〇	三・三三〇	三・五八〇	三・五八〇	三・六五〇	三・六五〇	三・六五〇
三・三六〇	三・三七〇	三・三七〇	三・三二〇	三・三二〇	三・二九〇	三・三〇〇	三・四〇〇	三・四〇〇
二・六五〇	二・六七〇	二・五二〇	二・五二〇	二・六七〇	二・七〇〇	二・七〇〇	二・七七〇	二・七七〇
三・三一〇	二・二〇〇	二・二〇〇	二・二七〇	二・二〇〇	二・二〇〇	二・二八〇	二・二八〇	二・三〇〇
三・四一〇	三・三九〇	二・八六〇	三・一三〇	三・五三〇	三・五四〇	三・五〇〇	三・五七〇	三・五八〇
三・四七〇	三・三九〇	三・三九〇	三・三九〇	三・三三〇	三・二七〇	三・四八〇	三・五四〇	三・五六〇

輕油 内外石油會社ノ競争ハ専ラ燈油ニ行ハレタルカ爲メ輕油ハ比較的ニ影響少ク協約成立ノ當時一函三十五六錢ノ騰貴ヲナシ燈油ノ競争中僅カニ十七八錢ノ下落ヲナセルノミ

硫 黃

函館ニ於ケル硫黃ハ「ルイジャナ」硫黃鑛山ノ成績豫期ノ如クナラサルト瑞典并ニ濠洲ニ於ケル需要ノ喚起トニヨリ前年ニ比シ概シテ順調ニシテ下半季ニ入り特ニ宜シク供給ノ却テ不足スルカ如キ盛況ヲ呈シタリ

米國ニ於ケル本邦硫黃ノ關稅問題ハ未タ何等ノ解決ヲ見スト雖トモ米國ニ對スル輸出ハ之レカ爲メニ毫モ影響ヲ受タルコトナク又清國向ノモノモ火藥製造用トシテ多量ニ取引セラレタリ

硫黄原鑛ノ販路モ硫酸製造肥料其他砲兵工廠用等次第ニ内地ニ擴張セラレ前途頗ル有望ナリ
 今各月ニ於ケル函館沖積一噸當價格并ニ前年トノ對照ヲ記スレハ次表ノ如シ

月次	四十三年		四十二年	
	月	円	月	円
一	月	三一・〇〇〇	月	二九・五〇〇
二	月	三〇・〇〇〇	月	二九・五〇〇
三	月	三一・五〇〇	月	二九・五〇〇
四	月	三一・五〇〇	月	三〇・〇〇〇
五	月	三一・五〇〇	月	三〇・〇〇〇
六	月	三一・八〇〇	月	三〇・五〇〇
七	月	三一・八〇〇	月	三〇・五〇〇
八	月	三二・〇〇〇	月	三〇・五〇〇
九	月	三三・〇〇〇	月	三〇・五〇〇
十	月	三三・〇〇〇	月	三〇・五〇〇
十一	月	三三・五〇〇	月	三〇・五〇〇
十二	月	三三・五〇〇	月	三〇・五〇〇
平均		三二・〇九〇		三〇・一七〇